

料金別納
郵便



上田市議会議員 **上田大好き** 齊藤達也

たっさんかい

達参会ニュース

2023年（令和5年）第21号

発行人 達参会（齊藤達也後援会）上田市中心2-20-12 討議資料
TEL&FAX 0268-75-0175 E-mail : t.saito.koenkai@gmail.com



昨年も皆さまに様々な形で支えて頂きまして、誠にありがとうございました。おかげさまで身近な地域課題（ごみ集積場管理、通学路の安全確保、市街地の渋滞対策、内水氾濫・下水逆流対策等）から産業水道委員会としての活動（中小企業支援の提案、森林環境譲与税の意見書提出等）、その他、公共施設の経営改善、障がいのある子ども達への支援等について、関係する皆さまのご協力を得ながら前に進めることができた1年であったと感じています。

先行きが見えない厳しい時代ではありますが、今年は年男ですので、少しでも好転させるべく、引き続き市民の皆さまとの対話と現場を大切にして、地道に活動して参ります。本年もよろしくお願い致します。



2022年11月阿部知事と懇談
（県内自治体議員・県民有志の皆さまと）

問 12月補正予算で追加計上されている公共施設等の燃料費及び光熱費の当初予算との比較、財源は。

答（総務部長）当初予算における指定管理施設を除く公共施設の燃料費及び光熱水費の総計は、7億2,288万円であり、内訳は燃料費が1億1,377万円、光熱水費は6億910万円。12月補正で追加計上した燃料費及び光熱水費の総額は2億3,154万円（32.0%増）であり、内訳は燃料費が2,022万円（17.8%増）、光熱水費が2億1,131万円（34.7%増）であり、全て一般財源である。

問 エネルギーコストの高騰対策及びゼロカーボンに向けた施策として、既存の公共施設の断熱改修等を進める考えはあるか。

答（総務部長）耐震化や長寿命化の際には省エネルギー改修を図り、新たな施設の建設や既存施設を更新する際は、使用するエネルギーとつくり出すエネルギーの収支をゼロにすることを目指している。限られた予算の中で最大の効果を

上げるためには、断熱改修等により今後発生する維持管理費用がどのように推移し、将来負担すべき費用は幾らかを的確に把握する公共施設マネジメントの視点で、効果的な省エネルギー化を目指していく。

問 エネルギーコストの削減等、公共施設における太陽光パネルの設置効果をどう捉えているか。また、今後の取組はどうか。

答（総務部長）設置状況は、30施設、559キロワット。発電した電力の自家消費が図られるため、エネルギーコスト高騰対策として有効であり、化石燃料由来の電力購入料が低減されるため、ゼロカーボン施策の一つである。今後、新築される公共施設への導入検討はもとより、既存施設も導入の可能性がある建物については、財源の検討に加え、発電事業者が太陽光設備を事業者自身の費用により設置、発電された電気を市に供給し、市がその電力を購入するオンサイトPPAやリースによる導入など、多面的に検討していく。